

38

『古今医統大全』の鍼灸について（第5報）

田中利江子

日本鍼灸研究会

〔緒言〕

徐春甫（生没年不詳）の著した『古今医統大全』百巻は、明の嘉靖35（1556）年に成立した医学全書で、明以前の歴代の医書及び経史百家の医学に関する資料を収録、古説を引いて医学理論を簡明に論じている。著者・徐春甫（生没年不詳）は明代中期の医家で、名は春甫、字は汝元、祁門（安徽省）の人。医家・汪宦を師とし、臨床にも秀で、太医院医官を勤めた。後には「一本堂宅仁医会」（1568）の設立にも携わっている。

第112回学術大会より4回にわたり『古今医統大全』を調査してきたが、今回はその総括を行う。

〔構成〕

巻1は歴代の著名な医家、医書の略解、巻2は『内経』の要旨、巻3は医制や医学概論、巻4は『内経』の脈候、巻5は運氣論の概説、巻6、7は鍼灸専門巻となっている。巻8～79は各病証に対して『内経』以下の諸書を引用し、病機、脈候、湯液処方、鍼灸法、養生法を述べている。巻80、81は「外科理例」とし主に腫瘍を論じ、巻82、83は「婦科心鏡」と題する婦人科専門巻、巻84は求子法、巻85は周産期、巻86、87は老年科、巻88～90は小児科、巻91は痘疹、巻92は奇病、巻93は経験秘方、巻94～96は本草、巻97、98は製薬や薬方、巻99、100は養生法を取り扱っている。

〔解析〕

『古今医統大全』の鍼灸専門巻は6、7巻であるが、巻6は「経穴発明」と題し、経絡ごとに353経穴をあげて、取穴法、鍼灸法、主治病証を列記するが、鍼灸法は基本的に『鍼灸聚英』を踏襲したものである。同文・類文を合わせると、鍼灸法条文は96%、灸法条文は91%が合致する。巻7「諸證鍼灸経穴」は、全86病証に対し、主治症と治療穴（各病症に1～11穴、一部に鍼灸法の記載を含む）を記載するが、62病証72%が『鍼灸聚英』とほぼ一致し、他の2病証は『普濟方』と一致した。同じく巻7「鍼灸直指」に著録される鍼灸13歌賦は全て『鍼灸聚英』所載のものである。巻82、83「婦科心鏡」の鍼灸条文は8条文で、うち5条文が『鍼灸聚英』に見える。巻90「小児灸法」の46病証は全て『明堂灸経』を典拠とするものであるが、艾柱の大きさの指定がほとんど欠落している。これは「小児灸法は艾柱の大きさが小さくなるのみで、治法は大人と異ならない」とする冒頭の定義によるものと考えられる。

巻8～巻90に属する中風門、厲風門、風痲門、中寒門、痲冷門、嘔吐噦門、咳逆門、嘔噎門、翻胃門、脹滿門、水腫門、積聚門、瀉泄門、瘡證門、厥證門、血證門、咳嗽門、喘證門、癆瘵門、癲狂門、頭痛門、腹痛門、脇痛門、疝氣門、鼻證門、耳證門、唇病門、便濁門、痔漏門、脱肛候、中蠱門、婦人大便下血候、幼幼彙集の各病門末に灸法が37項、巻9～巻82の厲風門、傷寒門、湿證門、嘈雜門、痞塊門、瘡證門、霍乱門、顫振候、諸氣門、邪祟門、頸項強痛、腰痛門、眼科門、耳證門、舌證門、齒候門、咽候門、疝脹候、癭瘤候、秘結候、夢遺精滑門、外科理例、婦科心鏡に鍼灸法が27項、見られるが、今回、典拠を特定するに至らなかった。

また病機や湯液処方の条文中に散見する鍼灸法条文151条文は、その109条文72%が巻80、巻81「外科理例」に属することから、排血、排膿の割合が高くなっている。

〔結語〕

『古今医統大全』の巻6などに著録される「経穴と主治病証」「病証と対応経穴（治療穴）」の論述形式を取る鍼灸法条文、及び鍼灸歌賦は概ね『鍼灸聚英』が典拠と云えよう。